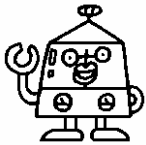


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

わた メダカの体に綿のようなものがつくのは、病気なの



白雲病か、水かび病にかかったんだよ。水温が低いとき
なら水かび病、それ以外なら白雲病だろうね。

水温が変化する春先や、水がよごれていると起きやすい白雲病

メダカの体やひれのあちこちが、白い雲のようなものでおおわれたようになるのが、白雲病です。この白雲は皮ふからねん液えきが出たもので、目に見えないほど小さい寄生虫きせいちゅう げんいんが原因で、このねん液をえさにして寄生虫はふえていきます。メダカは元気がなくなり、水底でじっとしていてえさも食べなくなり、やがて死にます。

ちりょう法としては、1%の食塩水に毎日きっちり30分ずつつけて（長くつけると弱ってしまう）もとの水そうにもどすのが、効果こうかがあります。

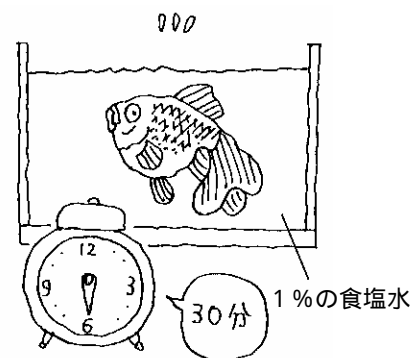
水温が変化しやすい時期で、水がよごれているとかかりやすい病気です。

水温が15 ぐらいの低温のときかかりやすいのが、水かび病

メダカの体に小さなきずができていて、水温が15 ぐらいのときにかかりやすいのが、水かび病です。水中の細菌さいきんがきず口についてふえ、綿のようなかびがついてくるのです。水かび病になったメダカは、水面近くでじっとして動かなくなり、きず口はただれてきて、やがて死んでしまいます。

病気のときは、ペットショップなどに相談して薬を買ってきて、正しく薬をとかした水につけてやるちりょう法で、病気をなおせます。

水をいつもきれいにし、水温があまり変化しないようにした水そうで、ていねいにあつかってやれば、メダカの病気はかなり防ふせぐことができます。



魚の病気のちりょう法